

## 地下鉄短信 (第573号) 令和5年10月17日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 橋田慶司  
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



### 記事 ○第30回鉄道フェスティバルに出展しました。

#### ○第30回鉄道フェスティバルに出展しました。



10月14日の「鉄道の日」は、明治5年に新橋・横浜間に初めて鉄道が開通したことを記念して、平成6年に制定され、今年は節目の30回目となります。その中心行事の一つとして「鉄道フェスティバル」が行われており、今年は、10月8日(日)・9日(月)の2日間開催されました。

本フェスティバルの会場は、ずっと日比谷公園で開催されてきましたが、今年はお台場イーストプロムナード「石と光の広場」「花の広場」で新たに開催されることになり、スペースがかなり広くなりました。

#### ◆5年ぶりの本格的なフェスティバル開催

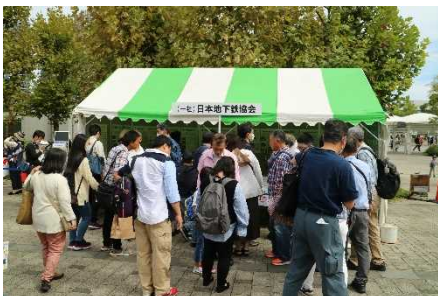
本フェスティバルは、令和元年は台風19号により、同2年及び3年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となり、昨年も新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ステージプログラムや物販・飲食類の販売等は中止となり展示中心で開催されたことから、従前の規模・内容で開催されるのは5年ぶりのこととなりました。

初日の8日(日)は、秋晴れの爽やかな一日となり、鉄道ファンのみならず多くの家族連れが長蛇の列をつくって開場を待っていらっしゃいました。今回はオープニングセレモニーとして、「鉄道の日」実行委員会の森地会長の開会のご挨拶の後に同委員会役員によるテープカットをもって開場となりました。

初日の入場者数は35,000人でしたが、2日目の9日(月)は終日生憎の秋雨で相当冷え込みましたが、それでも10,000人の方が入場され、2日間で45,000人の方がご来場されました。新型コロナ前の平成30年開催時は2日間で15万人の入場があったことに比べれば少なめではありましたが、昨年の2万人に比べると、待ちに待った例年楽しみにされている熱心な鉄道ファンがお集まりいただき、盛会となりました。



#### ◆会員事業者の紹介ポスターの掲出・パンフレットの配布



当協会のブースでは、協会スタッフが従前どおりのピンク色のウィンドブレーカーを着用して来場者の方々をお迎えしました。従来のように会員各社局ごとに創業・誕生の経緯や現在の重点事業、また最新の車両写真やバリアフリー化の推進状況等創意工夫された内容のポスターを作成し、テントの壁一面に掲出し、熱心な鉄道ファンが多く訪れ、ポスターに見入っていました。

上記のポスターのほか、大阪メトロ様からご提供していただいたポスターを掲示するとともにパンフレット類も多数展示・配布し、来場者の多くが大変興味をもたれ、持ち帰っていただきました。

また、当協会が編集している「世界の地下鉄」を発行されている(株)ぎょうせい様も当ブースを利用して、同書等の書籍の販売を行いました。



(当協会のブースを視察される  
国土交通省村田鉄道局長(左))

## ◆協会グッズの配布



協会では、地下鉄を利用する際のマナーをイラストなどで楽しく学ぶことができるリーフレット「電車のマナー(すごろく付)」を、会員30社局の車両前面写真をプリントした紙製クリアファイルに挿入して、ブースに来られた子供に1,000部配付しました。両日とも予定した部数が午前中で配付終了となるほどの好評でした。

## ◆リニアモーター台車の模型及び記念乗車券の展示

また、ブース内には今回も昨年に引き続き、当協会の保有しているリニアモーター台車(Aタイプ)の模型を展示いたしました。併せて、平成3年の営団地下鉄南北線開通記念や平成9年の大阪市交通局長堀鶴見緑地線開通記念の古い乗車券等も展示し、大人だけでなく多くの子供達も興味深く眺めたり写真を撮り、職員も驚くような専門的な質問をする大勢の子供ファンに会うことができました。



最後に、この「第30回鉄道フェスティバル」等の開催につきましては、会員各社局等の皆様からの多大なるご支援ご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。